

登録コード	J6200200	開講年度	2026			
授業科目	国際政治				担当教員	美甘 信吾
英文授業名	International Politics				副担当	
単位数	4	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限 水曜・2時限	対象学年
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標		授業で得られる「学位授与の方針」			⇔	【授業の達成目標】
		経法20加 現代社会が抱える課題に対して、社会科学の専門性を軸足とする解決方法を提案し、自然科学と協働しながら課題解決に導く力を身につける。			⇔	国際社会が直面しているグローバルイシューズについて基本的な問題を理解し解説できるようになる。
		経法23加（2026改）・総合法律，経法23加・総合法律 法学の専門領域の基礎能力として、リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。			⇔	・リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を解決していくうえで必要な国際政治学に関する基礎的な概念や理論について説明することができるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」		環境共生、多文化協働				
(3)全学横断特別教育プログラム		ローカル・イノベーター養成コース、環境マインド実践人材養成コース				
(4)授業の概要		国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューズについての基礎的な知識を身につけ、その歴史的経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を身につける。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第Ⅰ部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第Ⅱ部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第Ⅲ部では、グローバル・イシューズに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシート等で理解を確認する。参加人数にもよるが、グループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。				
(5)授業計画		第1回 序論：国際政治のアプローチとグローバル・イシューズ 第Ⅰ部 貧困と開発 第2回 貧困・経済格差 ①貧困とは何か 第3回 貧困・経済格差 ②人間開発とはどのような概念か 第4回 貧困・経済格差 ③貧困研究の現在 第5回 開発援助 ①援助は有効か 第6回 開発援助 ②日本の政府開発援助 第7回 開発援助 ③NGOによる海外協力の可能性 第8回 民主化・ガバナンス ①よき統治（Good Governance）とは何か 第9回 民主化・ガバナンス ②民主化の課題 第10回 環境問題 ①持続可能な開発とは何か 第11回 環境問題 ②地球環境問題 第Ⅱ部 紛争と平和 第12回 現代の紛争 ①アメリカの戦争 第13回 現代の紛争 ②「テロ」との戦い 第14回 現代の紛争 ③地域紛争:ウクライナ紛争 第15回 中間試験 第16回 紛争への介入 ①「人道的」介入 第17回 紛争への介入 ②平和構築の試み 第18回 紛争への介入 ③難民問題と人道援助 第19回 安全保障と核問題 ①安全保障概念の変容と冷戦後の核問題 第20回 安全保障と核問題 ②日本の安全保障政策 第21回 メディアと異文化理解 ①プロパガンダ 第22回 メディアと異文化理解 ②オリエンタリズムと異文化理解 第Ⅲ部 グローバル・ガバナンス 第23回 グローバル化とガバナンス ①グローバル化とその課題 第24回 グローバル化とガバナンス ②グローバル・ガバナンスと国連システム 第25回 ナショナリズム ①ナショナリズムとは何か 第26回 ナショナリズム ②国民国家の形成と課題 第27回 リージョナリズム ①EUの行方 第28回 リージョナリズム ②アジアの政治経済秩序 第29回 リージョナリズム ③東アジアの平和と繁栄 第30回 グローバル・イシューズ：解決への模索（振り返り：授業アンケート） 期末試験 ＊ゲスト講師の招聘とビデオ（映像）使用も検討し、内容を調整する予定。				
(6)成績評価の方法		中間試験（40パーセント）・期末試験（50パーセント）・レスポンスシート（課題と小テストを含む）（10パーセント）によって評価する。レスポンスシートは、原則テーマ毎に1回提出が求められる。中間試験と期末試験の出題は全て論述形式で行う。				
(7)成績評価の基準		授業内容の最も基本的なことが理解できていることを論述試験・提出課題と小テストで示せれば、「その水準にある」（可）。授業内容の十分な基礎知識があることを示せれば、「やや上にある」（良）。				

(7)成績評価の基準	基礎資料や参考文献なども十分に学習したことを示せれば、「かなり上にある」（優）。授業や基礎資料・参考文献の学習に基づき、自己の見解を説得力のある形で示せれば「卓越している」（秀）。
(8)事前事後学習の内容	授業に関する基礎資料などは、E-Alps システムにアップロードするので、事前に学習して授業に参加すること。レスポンスシート等を利用し、授業内容の理解を定期的に確認する。中間試験・期末試験の受験と小テストのためには十分な復習（事後学習）が必要。各講義の参考書をできる限り読むこと。
(9)履修上の注意	問題意識を持って新聞や雑誌を読み、テレビニュースも注意して見て欲しい（インターネットでも）。講義の進め方・難易度等に関する受講者からの評価・感想は、歓迎する。エントリーレポートを課す予定。
(10)質問,相談への対応	講義の後の休み時間を積極的に利用すること。講義の内容に関する質問は、定期的に行うレスポンスシートも利用するように。メールでの質問等も可能。個別に相談等がある場合は、まずメール等で連絡すること。
【教科書】	使用しない。
【参考書】	各講義の参考図書リストは、講義で紹介する（E-Alpsシステムに掲載）。重要な参考書として以下のものがある。 村田晃嗣 他 [2023] 『国際政治学をつかむ』（第3版） 有斐閣 防衛大学校安全保障学研究会 武田康裕他 [2018] 『新訂第5版 安全保障学入門』 亜紀書房 ジョセフ・ナイ デイヴィット・ウェルチ [2017] 『国際紛争—理論と歴史』 有斐閣 ジョン・ミアシャイマー [2019] 『大国政治の悲劇（新装完全版）』 五月書房新社 田中明彦・中西寛編 [2010] 『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』 有斐閣ブックス マンフレッド・B・スティーガー [2010] 『グローバリゼーション』 岩波書店 ポール・コリアー [2008] 『最底辺の10億人』 日経BP社 A.V. バナンジー、E. デュフロ [2012] 『貧乏人の経済学』 みすず書店 ハンス・ロスリング [2019] 『ファクトフルネス (Fact Fulness)』 日経BP社